

令和7年度  
アレルギー疾患に関する調査報告

---

---

---

令和8年3月  
鹿児島県教育庁保健体育課

## アレルギー疾患に関する調査

### 1 調査の名称

「アレルギー疾患に関する調査」

### 2 調査目的

近年、アレルギー疾患を有する児童生徒に対する学校の対応は多岐にわたるとともに、今後、ますますの取組の充実が求められる状況にある。本調査は、アレルギー疾患に関する児童生徒の実態及び学校における取組の現状などについて調査し、その結果を分析・評価することで今後の学校での取組等の充実を図ることを目的とする。

### 3 調査内容

アレルギー疾患に関するインターネット調査

### 4 調査対象

鹿児島県内の公立小・中・高・特別支援・義務教育学校

### 5 調査方法

各学校は、調査期間内にインターネット上の開設してある調査ページへアクセスし、調査票の各設問に回答を入力し、送信する。

### 6 調査時点

令和7年9月1日（月）時点

### 7 調査期間

令和7年9月1日（月）～令和7年9月30日（火）

### 8 調査票の校種別回答校数（率）及び児童生徒数

	回答校数（回答率）	学校数*	児童生徒数
小学校	454（100%）	454	80,936
中学校	196（100%）	196	42,433
高等学校	70（100%）	70	26,713
特別支援学校	15（100%）	15	2,921
義務教育学校	17（100%）	17	1,407
計	752（100%）	752	154,410

\*学校数：令和7年度学校基本調査より（公立）

### 9 調査結果の見方

調査結果の割合（%）は、小数点第2位を四捨五入したため、合計した値が100.0（%）とならないところがあるが、表では百分率を示すため合計を100.0（%）と表記している。

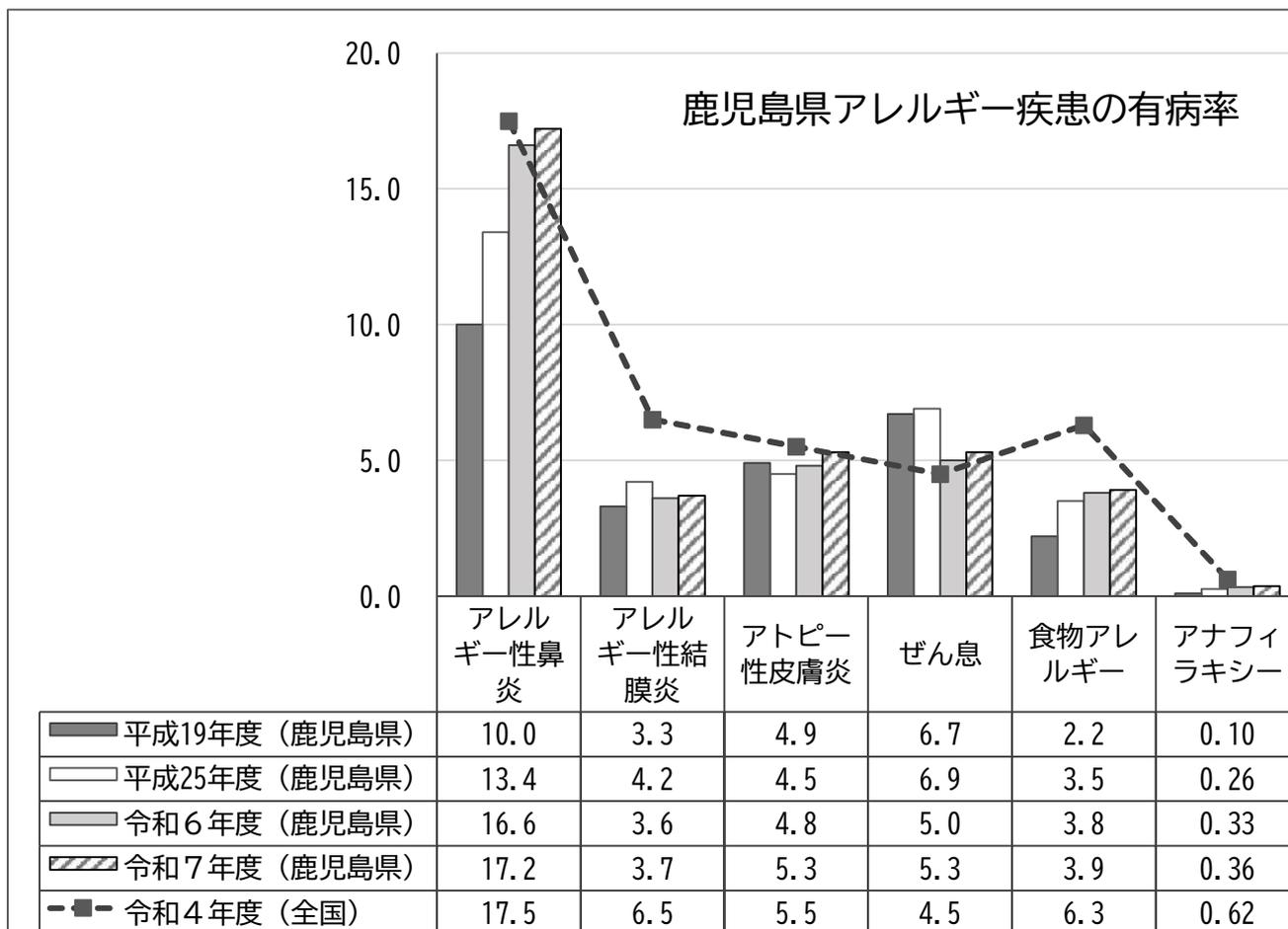
【基本情報】

問1 学校における児童生徒数，うちアレルギー疾患のある者等の数と管理指導表の提出者数，これまでのエピペンの使用実績について，お答えください。

		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
児童生徒数		80,936	42,433	26,713	2,921	1,407	154,410
アレルギー性 鼻炎	学校が把握している数	12,585	7,819	5,565	414	192	26,575
	有病率	15.5%	18.4%	20.8%	14.2%	13.6%	17.2%
	管理指導表の提出率	0.9%	0.3%	0.4%	6.0%	1.0%	0.7%
アレルギー性 結膜炎	学校が把握している数	3,102	1,477	909	106	55	5,649
	有病率	3.9%	3.5%	3.4%	3.6%	3.9%	3.7%
	管理指導表の提出率	2.0%	0.7%	1.8%	0%	0%	1.5%
アトピー性 皮膚炎	学校が把握している数	4,445	2,029	1,423	172	73	8,142
	有病率	5.5%	4.8%	5.3%	5.9%	5.2%	5.3%
	管理指導表の提出率	1.3%	1.0%	0.8%	10.5%	1.4%	1.3%
ぜん息	学校が把握している数	4,994	1,895	947	213	90	8,139
	有病率	6.2%	4.5%	3.5%	7.3%	6.4%	5.3%
	管理指導表の提出率	1.1%	0.6%	0.7%	6.6%	3.3%	1.1%
食物アレルギー	学校が把握している数	3,126	1,654	1,098	105	67	6,050
	有病率	3.9%	3.9%	4.1%	3.6%	4.8%	3.9%
	管理指導表の提出率	51.9%	42.3%	9.4%	68.6%	43.3%	41.7%
アナフィラキシー	学校が把握している数	301	142	92	10	6	551
	有病率	0.37%	0.33%	0.34%	0.34%	0.43%	0.36%
	管理指導表の提出率	76.0%	67.6%	46.7%	100%	50.0%	69.1%

※ 「学校が把握している数」には保健調査等による既往歴のある児童生徒も含まれています。

※  は，有病率の割合が昨年度より高くなっている項目です。



本県のアレルギー疾患の有病率は、「アレルギー性鼻炎」が17.2%、「アレルギー性結膜炎」が3.7%、「アトピー性皮膚炎」が5.3%、「ぜん息」が5.3%、「食物アレルギー」が3.9%、「アナフィラキシー」が0.36%であった。

#### ○エピペン保持者

※（ ）内は令和6年度の結果

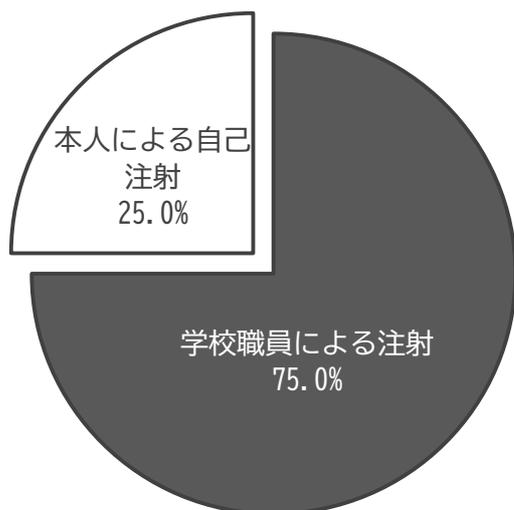
		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
児童生徒数		80,936	42,433	26,713	2,921	1,407	154,410
エピペン保持者	学校が把握している数	263	120	47	8	4	442
	所持率	0.32% (0.26)	0.28% (0.28)	0.18% (0.18)	0.27% (0.15)	0.28% (0.26)	0.29% (0.25)
	管理指導表の提出率	84.0% (89.8)	83.3% (73.9)	72.3% (70.8)	100% (100)	75.0% (75.0)	82.8% (82.6)

エピペンの保持者は0.29%であり、エピペン保持者の学校生活管理指導表の提出率は、全体で82.8%であった。

○エピペン使用者率（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
本人による自己注射	0%	0%	100% (1人)	0%	0%	25% (1人)
学校職員による注射	100% (2人)	100% (1人)	0%	0%	0%	75% (3人)
保護者による注射	0%	0%	0%	0%	0%	0%
救急救命士による注射	0%	0%	0%	0%	0%	0%
合計	100.0% (2人)	100.0% (1人)	100.0% (1人)	0%	0%	100.0% (4人)
エピペン保有者数	263	120	47	8	4	442

エpiペン使用実績の内訳（令和6年4月1日～令和7年3月31日）



令和6年4月1日～令和7年3月31日までの間のエpiペン使用者は、全体では4件（R5：6件）の使用実績があり、使用者としては、学校職員が3件、本人が1件であった。

**問2** 「食物アレルギーに対する管理指導表の提出者」について、管理指導表に記載された原因食物・除去根拠等の記載内容だけでは対応が困難で、令和7年度の対応として年度初め等に、主治医等にお問い合わせをした件数（児童生徒1人に対し1件）をお答えください。

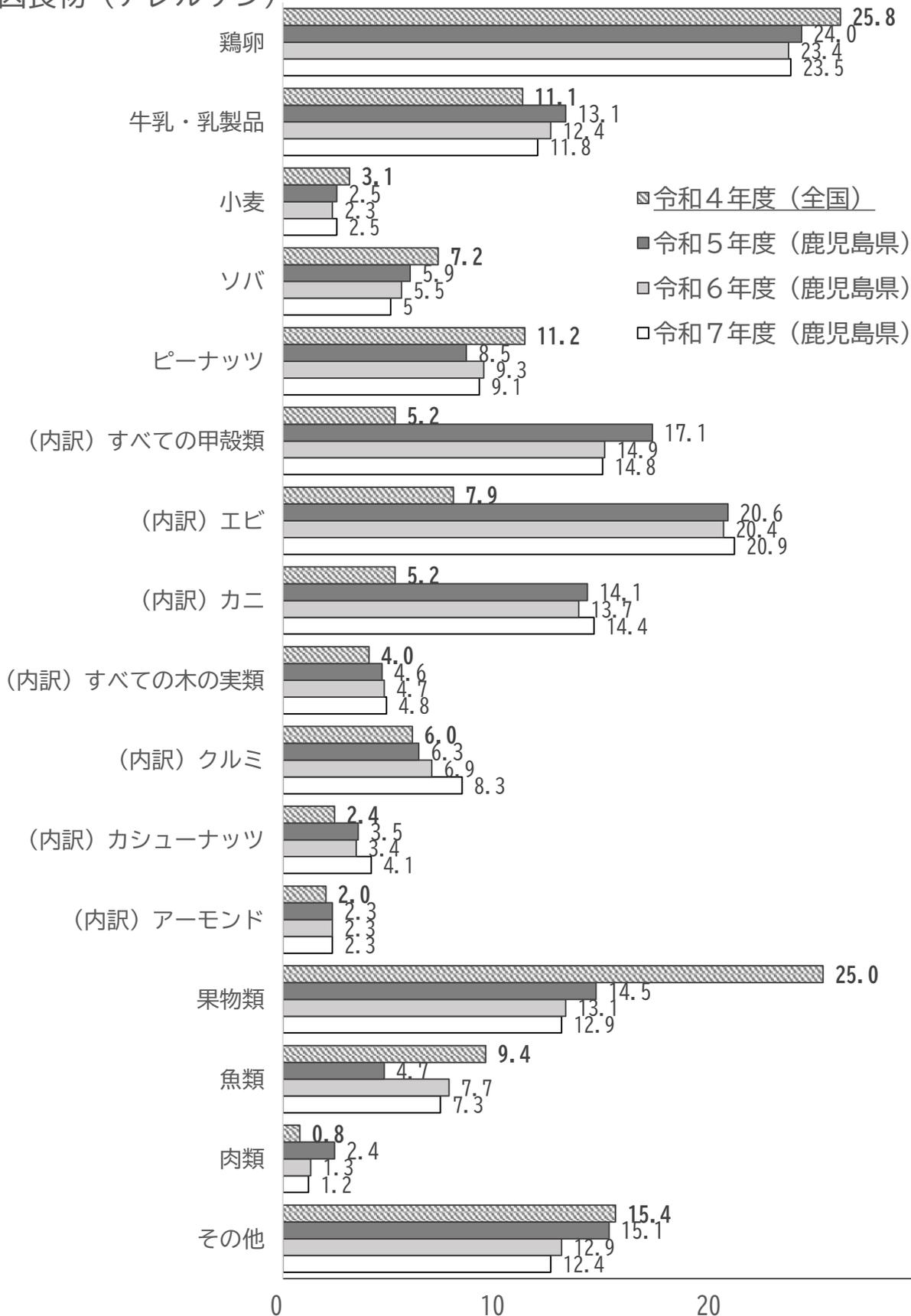
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
件数	38	11	1	5	0	55
学校数	15	7	1	2	0	25

主治医等にお問い合わせをした件数は合計55件であり、校種別にみると、小学校が最も多かった。

**問3** 食物アレルギーにおける原因食物（アレルゲン）別にそれぞれの児童生徒数をお答えください。

食物アレルギー (学校が把握している数)	小学校		中学校		高等学校		特別支援 学校		義務教育 学校		総計	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
鶏卵	800	25.6%	352	21.3%	220	20.0%	32	30.5%	19	28.4%	1,423	23.5%
牛乳・乳製品	395	12.6%	194	11.7%	93	8.5%	15	14.3%	14	20.9%	711	11.8%
小麦	90	2.9%	35	2.1%	20	1.8%	4	3.8%	2	3.0%	151	2.5%
ソバ	157	5.0%	64	3.9%	74	6.7%	8	7.6%	2	3.0%	305	5.0%
ピーナッツ	356	11.4%	118	7.1%	55	5.0%	15	14.3%	6	9.0%	550	9.1%
甲殻類												
(内訳) すべての 甲殻類	337	10.8%	314	19.0%	208	18.9%	24	22.9%	13	19.4%	896	14.8%
(内訳) エビ	524	16.8%	397	24.0%	310	28.2%	22	21.0%	14	20.9%	1,267	20.9%
(内訳) カニ	373	11.9%	274	16.6%	199	18.1%	18	17.1%	10	14.9%	874	14.4%
木の実類												
(内訳) すべての 木の実類	186	6.0%	66	4.0%	28	2.6%	8	7.6%	0	0%	288	4.8%
(内訳) クルミ	362	11.6%	95	5.7%	27	2.5%	10	9.5%	6	9.0%	500	8.3%
(内訳) カシューナッツ	165	5.3%	51	3.1%	19	1.7%	6	5.7%	5	7.5%	246	4.1%
(内訳) アーモンド	102	3.3%	24	1.5%	7	0.64%	2	1.9%	3	4.5%	138	2.3%
果物類	374	12.0%	211	12.8%	172	15.7%	16	15.2%	9	13.4%	782	12.9%
魚類	203	6.5%	131	7.9%	97	8.8%	4	3.8%	6	9.0%	441	7.3%
肉類	24	0.8%	16	1.0%	29	2.6%	2	1.9%	3	4.5%	74	1.2%
その他	335	10.7%	218	13.2%	166	15.1%	19	18.1%	11	16.4%	749	12.4%

# 原因食物（アレルゲン）



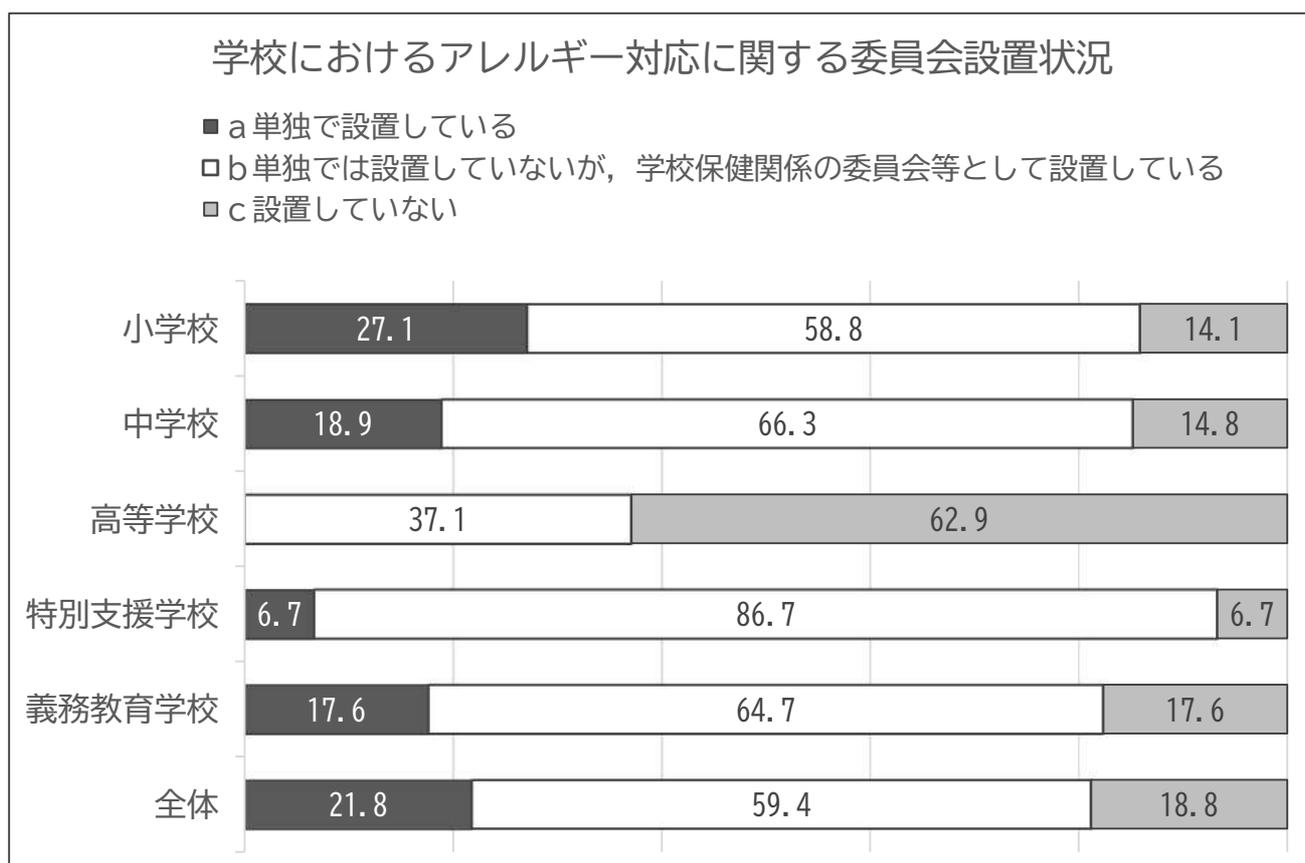
食物アレルギーにおける原因食物（アレルゲン）については、割合が高い順にみると、鶏卵（23.5%）、エビ（20.9%）、すべての甲殻類（14.8%）、カニ（14.4%）であった。

【学校における保健管理の取組状況】

**問4** 学校におけるアレルギー対応に関する委員会について、最も近いものを1つ選んでください。

- a 単独で設置している
- b 単独では設置していないが、学校保健関係の委員会等として設置している
- c 設置していない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	123	27.1%	37	18.9%	0	0%	1	6.7%	3	17.6%	164	21.8%
b	267	58.8%	130	66.3%	26	37.1%	13	86.7%	11	64.7%	447	59.4%
c	64	14.1%	29	14.8%	44	62.9%	1	6.7%	3	17.6%	141	18.8%
合計	454	100.0%	196	100.0%	70	100.0%	15	100.0%	17	100.0%	752	100.0%

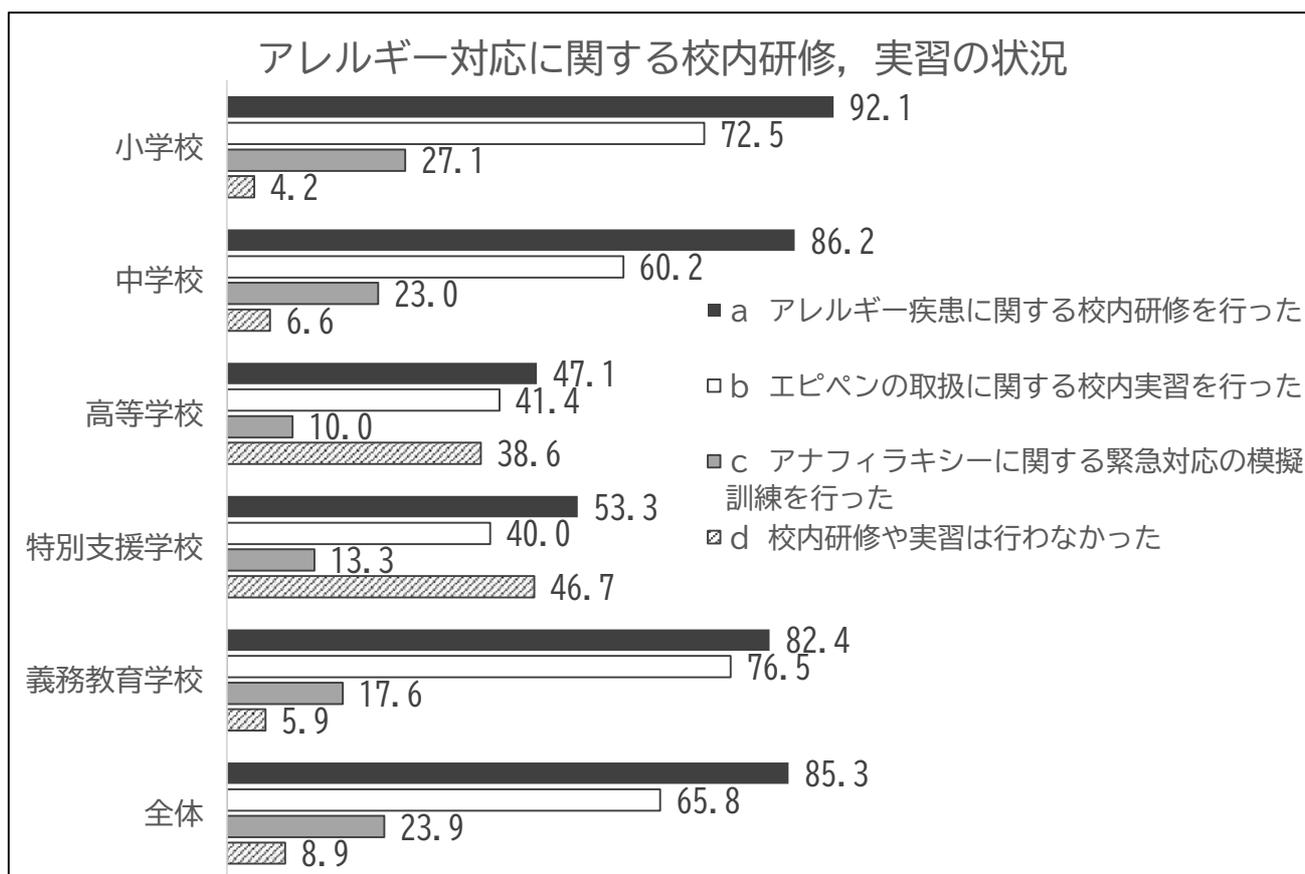


学校におけるアレルギー対応に関する委員会については、「単独で設置している」または「単独ではないが設置している」を合わせると、小学校 85.9% (R6:87.2)，中学校 85.2% (R6:86.2)，高等学校 37.1% (R6:38.6)，特別支援学校 93.4% (R6:93.3)，義務教育学校 82.3% (R6:88.2) であった。

**問5** 令和6年度のアレルギー対応に関する校内研修・実習について、該当する選択肢をすべて選んでください。

- a アレルギー疾患に関する校内研修を行った
- b エピペンの取扱いに関する校内実習を行った
- c アナフィラキシーに関する緊急対応の模擬訓練を行った
- d 校内研修や実習は行わなかった

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	418	92.1%	169	86.2%	33	47.1%	8	53.3%	14	82.4%	642	85.3%
b	329	72.5%	118	60.2%	29	41.4%	6	40.0%	13	76.5%	495	65.8%
c	123	27.1%	45	23.0%	7	10.0%	2	13.3%	3	17.6%	180	23.9%
d	19	4.2%	13	6.6%	27	38.6%	7	46.7%	1	5.9%	67	8.9%
対象校数	454	—	196	—	70	—	15	—	17	—	752	—

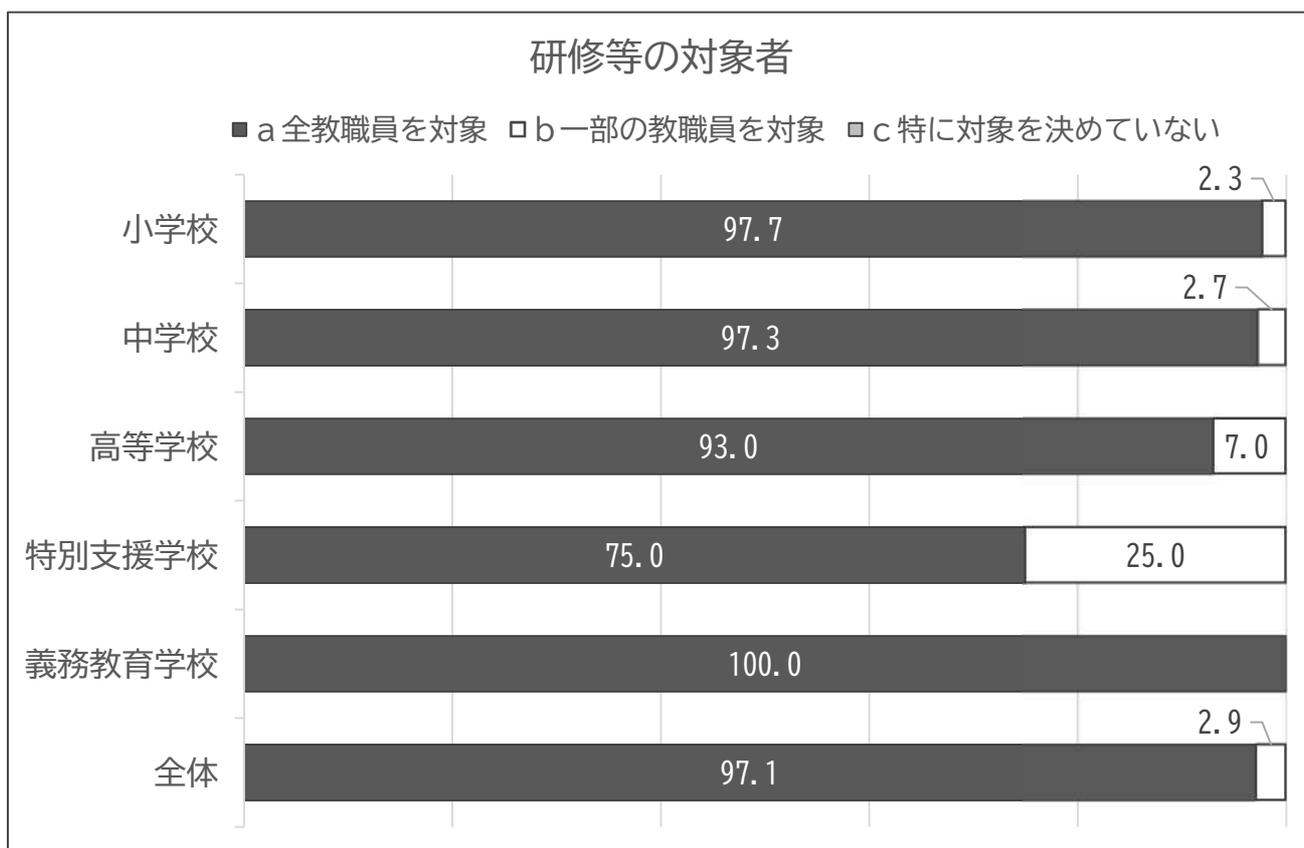


「アレルギーに関する校内研修を行った」のは全体で85.3% (R5:84.7)であり、「エピペンの取り扱いに関する校内実習を行った」のは65.8% (R5:64.6)、「アナフィラキシーに関する緊急対応の模擬訓練を行った」のは23.9% (R5:23.9)であった。「校内研修や実習を行わなかった」のは8.9% (R5:7.5%)であった。

**問6** 問5で研修等を行った（選択肢 a, b, c のいずれか）と回答された学校にお尋ねします。アレルギー対応に関する研修等の対象者について、最も近いものを1つ選んでください。

a 全教職員を対象    b 一部の教職員を対象    c 特に対象を決めていない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	425	97.7%	178	97.3%	40	93.0%	6	75.0%	16	100.0%	665	97.1%
b	10	2.3%	5	2.7%	3	7.0%	2	25%	0	0%	20	2.9%
c	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	435	100.0%	183	100.0%	43	100.0%	8	100.0%	16	100.0%	685	100.0%



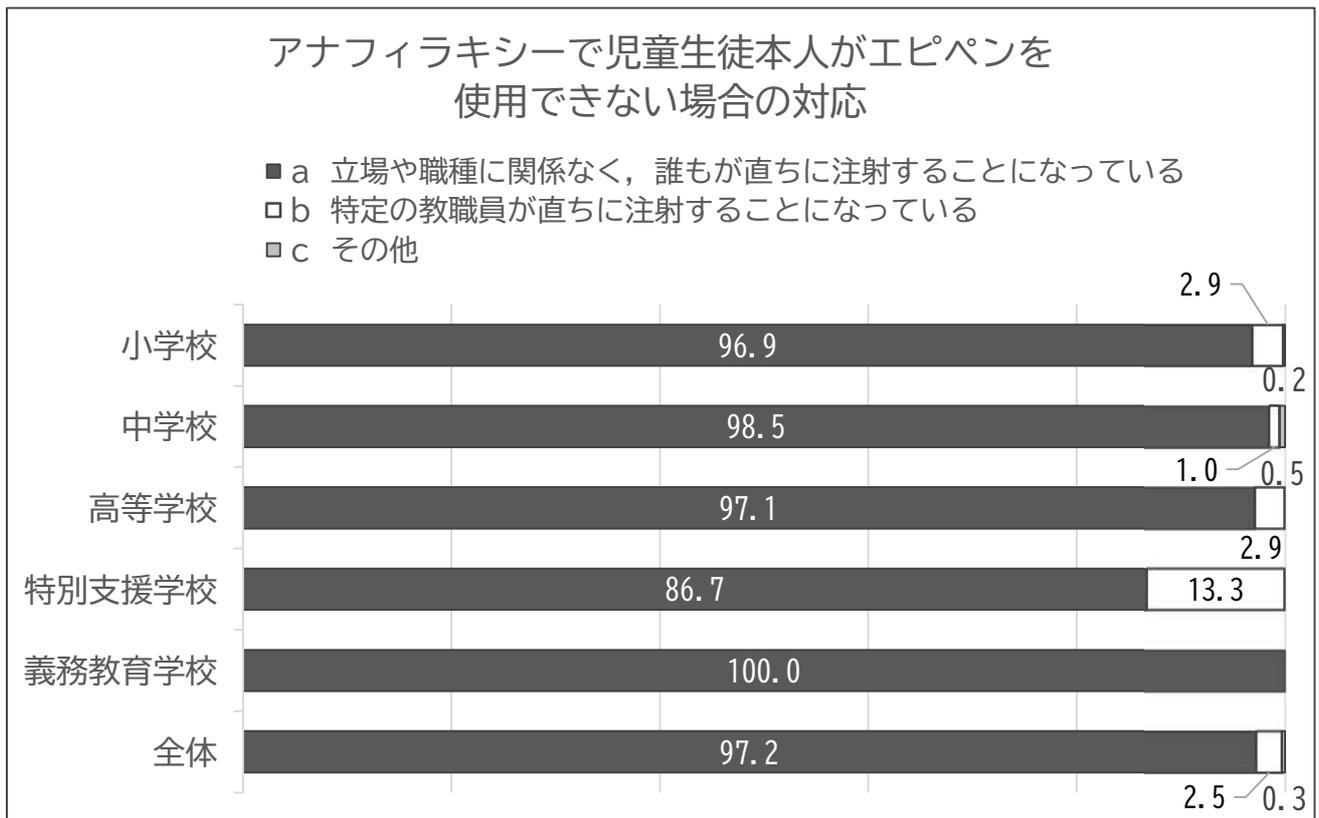
全体で、97.1%の学校が、全教職員を対象に研修を行っている。

【エピペンについて】

問1 エピペンを処方されている児童生徒がアナフィラキシーの状態にあり、かつ、本人が自らエピペンを使用できない場合の学校側の対応として、どのような対応を行うこととなっているか。最も近いものを1つ選んでください。※該当する児童生徒がいない場合も想定して回答してください。

- a 立場や職種に関係なく、誰もが直ちに注射することになっている
- b 特定の教職員が直ちに注射することになっている
- c その他

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	440	96.9%	193	98.5%	68	97.1%	13	86.7%	17	100%	731	97.2%
b	13	2.9%	2	1.0%	2	2.9%	2	13.3%	0	0%	19	2.5%
c	1	0.2%	1	0.5%	0	0%	0	0%	0	0%	2	0.3%
合計	454	100.0%	196	100.0%	70	100.0%	15	100.0%	17	100.0%	752	100.0%



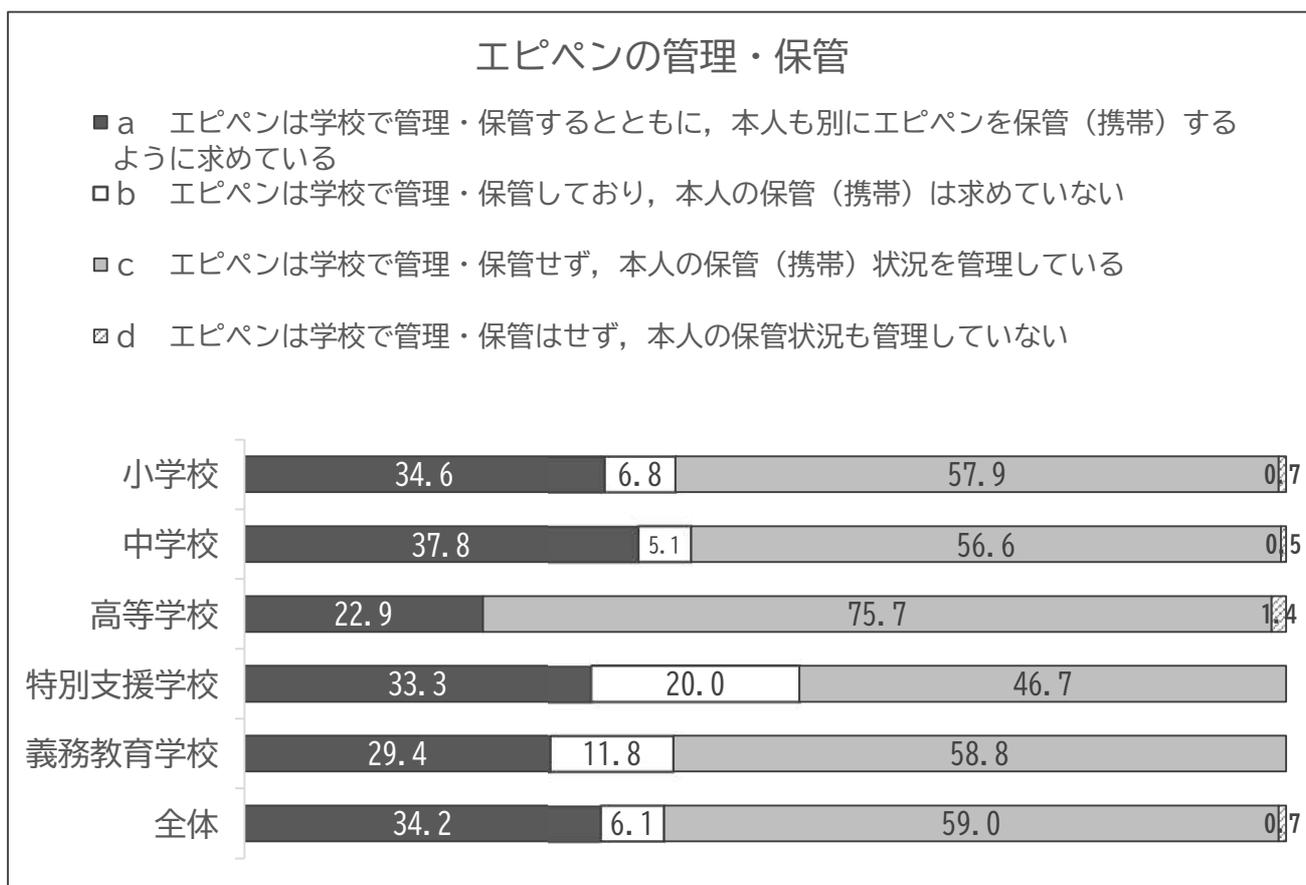
エピペンを処方されている児童生徒がアナフィラキシーの状態にあり、かつ、本人が自らエピペンを使用できない場合の学校側の対応については、全体で 97.2%が立場や職種に関係なく誰もが直ちに注射することになっていた。

特別支援学校では、特定の教職員が直ちに注射することになっている割合が、他の校種と比べて高くなっている。

問2 エピペンの管理・保管について、学校での対応に最も近い項目を1つ選択してください。※該当する児童生徒がない場合も想定して回答してください。

- a エピペンは学校で管理・保管するとともに、本人も別にエピペンを保管（携帯）するように求めている
- b エピペンは学校で管理・保管しており、本人の保管（携帯）は求めていない
- c エピペンは学校で管理・保管せず、本人の保管（携帯）状況を管理している
- d エピペンは学校で管理・保管はせず、本人の保管状況も管理していない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	157	34.6%	74	37.8%	16	22.9%	5	33.3%	5	29.4%	275	34.2%
b	31	6.8%	10	5.1%	0	0%	3	20.0%	2	11.8%	46	6.1%
c	263	57.9%	111	56.6%	53	75.7%	7	46.7%	10	58.8%	444	59.0%
d	3	0.7%	1	0.5%	1	1.4%	0	0%	0	0%	5	0.7%
合計	454	100.0%	196	100.0%	70	100.0%	15	100.0%	17	100.0%	752	100.0%

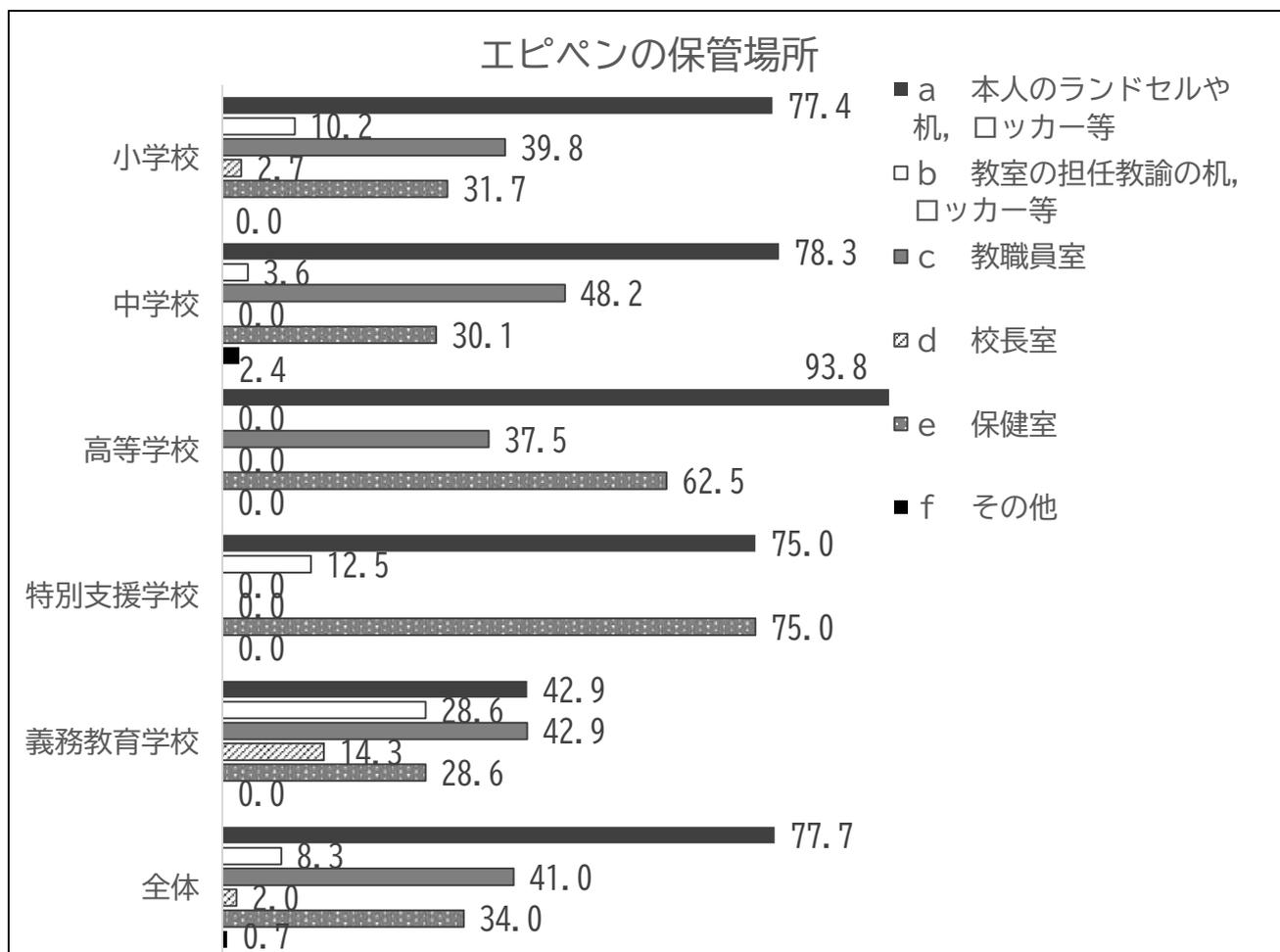


エピペンの管理・保管については、「エピペンは学校で管理・保管せず、本人の保管（携帯）状況を管理している」学校が一番多く、全体では59.0%であった。

問3 問2でエピペンを管理・保管されている（選択肢 a, b）と回答された学校にお尋ねします。エピペンの学校での保管場所について、該当する場所をすべて選んでください。

- a 本人のランドセルや机, ロッカー等
- b 教室の担任教諭の机, ロッカー等
- c 教職員室
- d 校長室
- e 保健室
- f その他

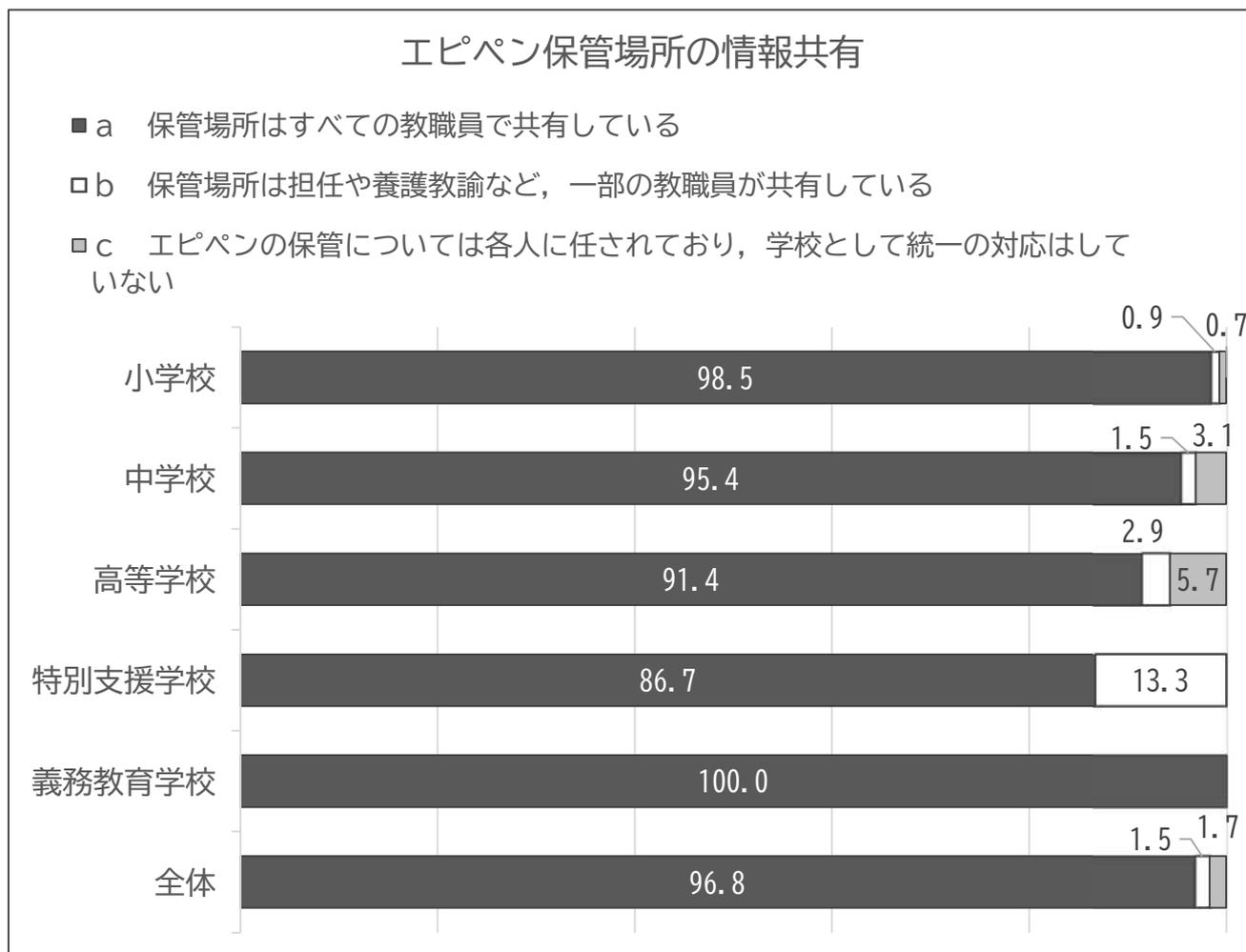
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	144	77.4%	65	78.3%	15	93.8%	6	75.0%	3	42.9%	233	77.7%
b	19	10.2%	3	3.6%	0	0%	1	12.5%	2	28.6%	25	8.3%
c	74	39.8%	40	48.2%	6	37.5%	0	0%	3	42.9%	123	41.0%
d	5	2.7%	0	0%	0	0%	0	0%	1	14.3%	6	2.0%
e	59	31.7%	25	30.1%	10	62.5%	6	75.0%	2	28.6%	102	34.0%
f	0	0%	2	2.4%	0	0%	0	0%	0	0%	2	0.7%
対象校数	188	—	84	—	16	—	8	—	7	—	300	—



問4 エピペンの保管場所の情報共有について、学校での対応に最も近い項目を1つ選択してください。

- a 保管場所はすべての教職員で共有している
- b 保管場所は担任や養護教諭など、一部の教職員が共有している
- c エピペンの保管については各人に任されており、学校として統一の対応はしていない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	447	98.5%	187	95.4%	64	91.4%	13	86.7%	17	100%	728	96.8%
b	4	0.9%	3	1.5%	2	2.9%	2	13.3%	0	0%	11	1.5%
c	3	0.7%	6	3.1%	4	5.7%	0	0%	0	0%	13	1.7%
合計	454	100.0%	196	100.0%	70	100.0%	15	100.0%	17	100.0%	752	100.0%



教職員間におけるエピペンの保管場所の情報共有については、全体で「保管場所はすべての教職員で共有している」割合が、96.8%と高かった。

問5 食物アレルギー・アナフィラキシー対応に関する外部機関との連携について、該当する選択肢をすべて選んでください。

- a 主治医と連携している
- b 学校医と連携している
- c 消防機関と連携している  
(エピペンを所持している児童生徒の情報を消防機関に提供している)
- d 消防機関と連携している  
(エピペンを所持している児童生徒の情報を消防機関に提供していない)
- e 緊急時連絡医療機関と連携している
- f 特に連携を行っていない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	307	67.6%	116	59.2%	28	40.0%	14	93.3%	10	58.8%	475	63.2%
b	210	46.3%	86	43.9%	33	47.1%	9	60.0%	8	47.1%	346	46.0%
c	161	35.5%	54	25.6%	11	15.7%	2	13.3%	5	29.4%	233	31.0%
d	35	7.7%	15	7.7%	7	10.0%	0	0%	0	0%	57	7.6%
e	66	14.5%	35	17.9%	11	15.7%	2	13.3%	8	47.1%	122	16.2%
f	51	11.2%	25	12.8%	16	22.9%	0	0%	0	0%	92	12.2%
対象校数	454	—	196	—	70	—	15	—	17	—	752	—

